

献 辞

鴻池俊憲先生は、平成29年3月をもって本学経営学部を定年退職されることになりました。本学専任教員として教育・研究に携われた期間は38年間の長きにわたるものでございます。本学における先生の教育・研究活動に対するご功績を讃え、ここに退任記念論文集を贈るものであります。

鴻池先生は、昭和48年3月に神戸大学経済学部をご卒業後、昭和49年4月に同大学院経済学研究科修士課程に進学され、昭和54年3月に同大学院経済学研究科博士課程を単位取得退学されました。大学院時代には、理論経済学を専攻され、ケインズの経済理論の研究に努力を傾けられました。

鴻池先生は、深き縁に導かれ、昭和54年4月に近畿大学教養部の講師として教鞭をとられることになりました。昭和58年4月に教養部助教授、平成8年4月に教授に昇格されました。その後、平成13年4月に教養部から商経学部経済学科に教授として移籍され、商経学部の改組に伴って、平成15年4月から経営学部商学科の教授として教育と研究活動に取り組まれました。ご担当の講義科目につきましては、マクロ経済学、日本経済論でございました。

経営学部の教育・運営につきましては、鴻池先生は、平成19年4月から平成20年9月、平成26年10月から平成27年9月までを経営学部商学科国際ビジネスコース主任、平成19年4月から平成24年9月までスポーツマネジメントコース主任を担当されました。当時の商学科に設置された国際ビジネスコース、スポーツ学生を対象としたスポーツマネジメントコースの充実を図るべく、積極的に学部運営に力を尽くされました。そして、平成26年10月から平成28年9月まで商学科長という要職に就かれました。現在の商学科には、マーケティング戦略コース、観光・サービスコース、貿易・ファイナンスコースという3つのコースを置くことにより、商学科独自の特色を打ち出す教育活動が実践されていますが、先生は、商学科長として、学科内の意見を

取り纏め、学部運営に貢献されました。さらに平成25年4月から平成26年9月までの期間、学生部長補佐として、大学全体の運営にも貢献されました。大学教育の一環として、クラブ活動をあげることができますが、先生は、平成19年4月から平成29年3月まで、バレーボール部部長を務め、スポーツ学生の教育・指導に専念されました。現在の経営学部における活気に満ちた発展は、鴻池先生をはじめ多くの先生方によるご努力の賜物であると心より感謝いたしております。

鴻池先生のご研究につきましては、主として、ポスト・ケインズ派方法論に基づく考え方に立脚点をおかれ、所得分配論に関する研究が行われました。A. アシマコプロスの著書『ケインズ「一般理論」と蓄積』（日本経済評論社）を単独で翻訳され、A. アイクナー編『なぜ経済学は科学ではないのか』（日本経済評論社）、S.C. ダウ『マクロ経済学の構図—方法論的アプローチ』（日本経済評論社）等の共訳によって、新自由主義に依拠した経済学に対するポスト・ケインズ派の思想を明らかにする取り組みが行われています。ポスト・ケインズ派の特徴は、不確実な知識に基づいて完結された論理ではなく、現実的な整合性をもつ部分均衡によって理論の構築をはかるところにあるとされたうえで、企業成長と所得分配、企業行動と所得分配への効果等に関する研究活動が行われました。さらに労働市場論からのアプローチの視点に立ち、個人間所得分配に関する制度的諸側面の問題、企業の組織構造と賃金等について、真摯な姿勢で研究されました。

社会貢献につきましては、先生は、平成18年9月から平成25年8月まで、東大阪市生涯学習市民推進会議の委員として地域社会の発展に寄与されたことがあげられます。東大阪市では、「まちに誇りと愛着がもてる魅力あるまちづくり」を推進する一環として「第3次 東大阪市生涯学習推進計画」の策定が行われました。先生は、平成21年9月から平成25年8月まで、同会議会長に就かれ、「第3次 東大阪市生涯学習推進計画」（東大阪市，2011（平成23）年3月）の策定に参画されたのでございます。会長職で活躍された成果として公表されたものが、本学教員の光山秀行氏と共同執筆された論文

「生涯学習・生涯スポーツと地域社会―バレーボールを通じた社会貢献―」
『商経学叢』（第57巻第1号）であると聞き及んでいます。

鴻池先生は、温厚で篤実な人柄でありました。宮澤賢治の詩の一節に、「ヨクミキキシワカリ，ソシテワスレズ（よく見聞きし分かり そして忘れず）」という表現がありますが、先生は、他者の考えを尊重し、理解し、その上でご自分の立場から意見を述べられました。バレーボール部の部長としてスポーツ学生に慕われ、学生に愛される人が先生でありました。先生のご退職につきましては、「寂しさの感あり」の一言に尽きるわけですが、先生が残されし良きものを継承し、今後の経営学部的发展につなげたいと存じます。先生には、ご退職後も、経営学部に対するご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、これからも健康に留意され、なお一層のご活躍を心よりお祈り致します。併せて、この退職記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員会の労に対し、心より厚くお礼申し上げます。

平成29年1月

近畿大学経営学部長
山 口 忠 昭